

絶滅危惧種のオオムラサキ

神戸北高で羽化に成功

環境省レッドリストで準絶滅危惧種に指定されている国蝶「オオムラサキ」が、神戸北高校(北区唐櫃台2)で羽化した。同校の理科部員らが幼虫・さなぎから飼育してきたもので、25日には、近くのからと保育所の園児が同校を訪れ、優雅な羽ばたきや鮮やかな羽色を見学した。

地元の人にきれいなチョウを見てもらおうと、同校が「オオムラサキプロジェクト」と銘打ち、あいな里山公園から幼虫・さなぎ計4匹を譲り受け飼育に挑戦した。

先月中旬、校内に約20平方メートルの飼育用ゲージを設置し、中に葉っぱが幼虫の餌となるエノキを植えるなど

して育てた。先週末に2匹が羽化したという。

この日、同校を訪問した園児18人に、理科部員らがオオムラサキの生態を解説。園児らは「あそこに飛んでる」「羽がきれい」などと歓声を上げていた。

同部の五位堂祥貴部長(16)は「来年は卵から羽化させて、数ももっと増やしたい」と話した。

(西竹唯太郎)



羽化したオオムラサキ
(同校提供)

子どもらにオオムラサキについて解説する理科部員＝いずれも神戸北高校

